

みつけた！



六ヶ所村の魅力を発掘・発見・発信！

出戸地区の無病息災を祈って

3月20日(月)出戸地区で春分の日に合わせて”念仏”が行われました。出戸地区の念仏会5人の方々が地区内を歩き回り、東西南北で”ナムーダーブーダーブダー”と念仏を唱えながら直径3mほどの数珠を5人程で回します。また、地区の北と南の入口に藁人形を括って邪気を払います。病気になりやすい季節の変わり目(春分の日)に、健康に過ごしたい出戸地区の人々の願いが込められていました。



出戸地区の東西南北で数珠回しをしながら”ナムーダーブーダーブダー”と唱えます

疫病よ立ち去れ～！



大きな珠が自分に回ってきたら一例をします。

念仏会の方によると”大おばあ様のころからやっていた”そうです。明治10年～44年にかけて日本全国でコレラが大流行し、最高で約16万人の死者がありました。六ヶ所村内では、明治19年に発生し、26人が感染し、10人の死者がありました。このような疫病をきっかけに、毎年おこなわれてきたのかも知れません。



北と南に藁人形を木に括りつめます



女



男

藁人形



取り換えのため一足半の草鞋



刀



福田友之さんの説によれば、上尾駮(1)遺跡の鼻曲土面も集落の柱に括りつけていたのではないかと考えられています。縄文時代から、集落の入口で魔よけの儀式が行われていたのかもしれない。



道端にフクジュソウが咲いていました。